全酪連会報 7

2019 JUL No.646

ZENRAKUREN

酪農とのかけはし／近藤大祐さん

父の日に牛乳を贈ろう!

第46回 らくのうこどもギャラリー 入賞作品紹介

酪農部だより／狭山工場紹介

購買生産指導部だより／DMSシステム 平成30年集計結果

酪政連活動報告

酪農トピックス／長野県「酪農青年女性会議総会」開催される（東京）ほか

日本酪農見て歩紀／比嘉牧場 沖縄県豊見城市

カーフトップ ラインナップ

www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/

全国酪農業協同組合連合会

酪農とのかけはし

第20回　宮城県農業共済組合（NOSAI宮城）県北家畜診療センター

酪農の獣医師が性に合ってます

こんどう　だいすけ
近藤 大祐さん

略　　歴：静岡県浜松市生まれ
北里大学獣医学部（青森県十和田市）卒業
宮城県農業共済組合 技師

現在の職業に携わるまで

出身は静岡県浜松市、全くの非農家に生まれ、牛に触ったこともほとんどありませんでした。高校3年になって獣医師という職業があるのだと改めて気づき、北里大学獣医学部に進学。牛については分からない・知らないことばかり。勉強して行く中で、勉強すればするほど身についてくる。周囲の人に牛の話をすると、自分の成長が感じられ、だんだん面白くなり大動物・牛の道を歩むようになり獣医師になりました。実家は工業地帯ということもあり、牛の農家数も少なかったことから大学時代を過ごした東北で仕事をしていこうと考え、NOSAI宮城へ就職しました。

酪農の獣医師が性に合っている

獣医師になって現在3年目。大学を出た当初は経験値がないのに、酪農家さんは文句も言わずに育ててくれている。その期待には応え

▲ 今回の取材は、みやぎの酪農協宮城県栗原市千田農場㈱にご協力いただきました

ようと思ってやってきています。農家さんに教えてもらい、別の農家さんへの指導につなげる。会話しながら改善点を探していく仕事。とにかくよく喋るのが自分の特徴なので、それを活かせる仕事で性に合っていると感じています。

酪農の魅力とやりがい

獣医師の側からは、経営側にどんどん入り込んで行く必要がある仕事。個体を診ることももちろん必要ですが、それだけでなく群全体をいかに管理して行くかということが、自然と求められると思うので、そこがやりがいです。

酪農家目線では、努力次第で経営が安定するし、逆に悪化もする。

今いろいろなデータが有る環境にあります。このデータを用いていかに群全体をコントロールしていくかが一番大切だと思っています。いろいろなデータを駆使して、農家が困ったときに応えられる獣医師でありたい。その明確な目標に向かって努力できることもやりがいです。

近藤 大祐さん の 1日のタイムスケジュール(標準的に)

8:30 ▶	業務開始 往診など受付
9:30 ▶	センター出発 診療など
12:00 ▶	昼食・休憩
13:00 ▶	業務再開 診療など (途中休憩)
18:00 ▶	センター帰所 病理検査・カルテ整理・ 事務整理など

※当番制で急患対応など夜自宅待機月４～５回

全国の酪農家に 一言！

獣医師は、酪農家さんの力になろうと、必死に日々頑張っているので、酪農家さんと勉強しながら、一緒に今後の酪農業の繁栄ができるようになればと思います。どんどん勉強させてもらって、若手医師を鍛えていただければ、必ずお返しいたします!!

父の日に牛乳を贈ろう！ 前編

今年も全国各地キャンペーンを実施！

全国酪農青年女性会議による「父の日に牛乳を贈ろう！キャンペーン」が、今年も全国各地で開催されました。今年は４月末～父の日である6月16日㈰を中心に、各地域において特色のある活動を全国で展開しました。

今月号では、各地で実施されたキャンペーンの一部をご紹介します。

北海道

北海道酪農青年女性会議は、保育園・認定こども園２か所で普及活動を行いました。昨年に続き委員のお子さんが通う北見市の保育園にも訪問し、クイズを行いました。こちらの園では昨年の訪問の後、委員の牧場を訪れて実際の牛に触れたり哺乳を体験するなど、子どもたちが酪農に触れる機会ができたとのこと。今年の訪問も歓迎いただき、「牛乳にゅにゅにゅ」という牛乳応援ソングのダンスを練習して当日披露してくれました。

札幌市内の園では、まず子どもたちから質問を受けました。「うしさんは何食べるの？」という質問に回答した後「どれくらい食べるのかな？」「たくさん食べる牛さんの体重はどれくらいかな？」「胃袋はいくつあるのかな？」と内容を広げて子供たちと一緒に考えました。他にも「おうちってどうなっているの？」「お風呂は入るの？」など素直な質問があがり、次年度以降のクイズのヒントにもなりました。園のご配慮で、当日プレゼントした牛乳を子どもたちがその場で美味しそうに飲んでくれました。

◀ 牛乳にゅにゅにゅ!!

愛知県

●愛知県酪青年女性部主催【父の日メッセージコンテスト】の開催

愛知県酪農農業協同組合青年女性部（岩田周部長）は、昨年に引き続き今年で13回目となる、お子さんからお父さんへのメッセージコンテストを開催しました。今年は県内外から700通以上の応募があり、優秀作品に選ばれた20家族に乳製品を贈呈、そのうち5家族には6月15日㈯に青年女性部部員が直接ご家庭に訪問し、お子さんからお父さんへのメッセージを朗読した後、牛乳で乾杯を行いお父さんへの感謝の気持ちとともに、もっと牛乳を飲んで頂くようアピールしました。メッセージカードを受け取ったお父さんの中には少し照れくさそうにされる方など様々な思いでお子さんに「ありがとう」との感謝の言葉を述べていました。

参加したスタッフ全員天気が悪い中で啓蒙活動に取り組み、無事キャンペーンは終了しました。

三重県

●三重県酪農女性会議主催【三重県知事への牛乳贈呈式】の開催

三重県酪農女性会議（堀山静代委員長）は、6月11日㈫に鈴木県知事への牛乳贈呈式を行い、県内の酪農情勢について意見交換を行いました。

岐阜県

●岐阜県酪農青年女性会議主催【岐阜県知事への牛乳贈呈式】の開催

岐阜県酪農青年女性会議（宮垣俊介委員長）は、6月12日㈬に古田県知事への牛乳贈呈式を行い、県内の酪農情勢について意見交換を行いました。

東海

●中部酪青女会議主催【東海農政局生産部長への牛乳贈呈式】の開催

中部酪農青年女性会議（森富士樹委員長）は、6月11日㈫に東海農政局を訪れ、松井宏聡生産部長に牛乳を贈呈し、牛乳の消費拡大のPRを行いました。

その後、松井宏聡生産部長の発声により牛乳で乾杯を行い、7月11日㈭～12日㈮開催の全国酪農発表大会、本キャンペーンの管内活動状況、本年度の当会議の活動計画、酪農情勢等について情報交換を行いました。

鳥取県

●大山乳業農協女性部・青年部

開催日：6月10日㈪（鳥取県庁）

内　容：県庁を訪問し、平井県知事と牛乳で乾杯、乳製品を贈呈し、良質乳生産のためのこだわりを説明し、消費拡大の協力を要請した。また酪農家がかいた絵本を県内小学校、図書館へ寄贈した。

開催日：6月7日㈮・15日㈯・29日㈯

（鳥取県内量販店（3か所））

内　容：県産牛乳などのPR活動と牛乳を使ったみるくもちの実演試食を行った。

開催日：6月7日㈮・15日㈯・29日㈯

（鳥取県内量販店（3か所））

内　容：県産牛乳などのPR活動を展開した。

開催日：6月16日㈰（イベント会場（1か所））

内　容：酪農家がかいた絵本を紹介するとともに、牛乳月間についてPRする。

岡山県

●おかやま酪農協女性部・青年部

開催日：6月5日㈬（JR岡山駅前）

内　容：JR岡山駅前でPR景品を配布、牛乳月間のキャンペーンを展開し、消費拡大をアピールする。

開催日：6月5日㈬（岡山県庁）

内　容：県知事を表敬訪問し、県主催の各種会議やスポーツイベントで県産牛乳を活用してほしいと、牛乳を贈呈する。

広島県

●広酪メンバーズクラブ

開催日：6月2日㈰（北広島町）

内　容：ユニセフ無形文化遺産「壬生の花田植」の開催に合わせ、牛乳普及の活動を行った。

開催日：6月3日㈪（広島県庁）

内　容：広島県庁にて、知事、教育長、農林水産局長に酪農家の女性の方中心に牛乳普及のPRを行った。

山口県

●山口県酪農青年女性会議

開催日：6月8日㈯

（周防大島の道の駅サザンセトとうわ）

内　容：「MILK JAPAN in サザンセトとうわ」を山口県乳業協会と開催し、牛乳の試飲や搾乳体験を実施した。また、父の日のツールやパンフレット等の配布を行った。

愛媛県

●愛媛県酪農経営者協議会

開催日：6月7日㈮（愛媛県庁）
内　容：県庁を訪問し、お父さんの代表として中村県知事に県産牛乳と乳製品を贈呈した。「牛乳を美味しく飲んでもらうため頑張って生産します。」とPRするとともに、県下約60の小学校で食育教育を12年に亘り実施していることや、昨年7月豪雨災害からの復興状況の報告を行った。知事からは「県産牛乳を是非愛飲してほしい。」と多くのマスコミ関係者にアピールされた。その後、県庁ロビーにて牛乳の試飲や乳牛の等身大模型での搾乳体験を実施するなどのPR活動を行った。

福岡県

●久留米支所

開催日：6月6日㈭（朝倉市役所）
内　容：市長へ牛乳贈呈

開催日：6月6日㈭（筑前町役場）
内　容：町長へ牛乳贈呈

開催日：6月16日㈰（イオン甘木店）
内　容：牛乳試飲、似顔絵、牛乳を使った料理のレシピ・チラシ・風船・ミルメーク等ツール配布

●福岡支所

開催日：6月15日㈯（ラッテビアンコ）
内　容：ミルメーク配布

開催日：6月16日㈰（伊都菜彩）
内　容：ミルメーク配布

佐賀県

●佐賀県酪農婦人部連絡協議会

佐賀県酪農婦人部連絡協議会ＪＡグループ佐賀畜産振興協議会は６月３日㈪に、就学前の園児に栄養豊富な牛乳を飲んで健康で元気になってもらおうと、新栄保育園園児へ牛乳を贈りました。また、10日㈪には清和保育園、大島保育園の３園に贈呈しました。園児の保護者向けにはリーフレット等を配布し、多様な牛乳の効能についてPRを行いました。

尚、牛乳は来年の３月まで10ヶ月間、月２回継続して届けます。

▲ 唐津市「清和保育園」の園児も「牛乳に乾杯！」

◀ 唐津市「大島保育園」で牛姿で「牛乳飲んで元気で健康になってね！」

▲ 佐賀市鍋島町「新栄保育園」6月3日「牛乳大好き！！愛してミルク♥」

▲ 佐賀市「新栄保育園」にて牛乳贈呈

大分県

●大分県酪農青年女性会議

大分県酪農青年女性会議は、６月９日㈰に大分市にある商業施設「パークプレイス大分」にて、～牛乳（ちち）ふれあい広場～と題しまして、父の日イベントを開催しました。内容としましては、模擬搾乳体験・バター作り体験・骨密度検査・牛乳配布・リーフレット配布を行いました。当日は晴天に恵まれ、たくさんの親子連れで賑わっていて、模擬搾乳体験と骨密度検査では終始行列が絶えず、90枚（30人×３回）準備していたバター作り体験の整理券もあっという間になくなってしまう程でした。バター作り体験の他には、リーフレットと牛乳の配布も行い、牛乳をPRできる機会を設けることができました。

また、当日は全日本ホルスタイン共進会のカウントダウンボードのお披露目やマスコットキャラクターのミルちゃんが来場し、子供達が大喜びでミルちゃんに群がる姿が印象的でした。

熊本県

●熊本県酪農青壮年部・女性部協議会

熊本県酪農青壮年部協議会・熊本県酪農女性部協議会では、父の日を迎えるに当たり、今年度も「ちちの日に牛乳（ちち）を贈ろう！キャンペーン」を実施しました。

・6月3日㈪ 熊本県庁・九州農政局での牛乳贈呈式

熊本県酪農女性部協議会役員は、熊本県庁および九州農政局を訪問し、熊本県蒲島知事や九州農政局堀畑局長に牛乳を贈呈しました。当日は多くの関係各所の皆様へ牛乳に加え、女性部役員が持参した牛乳を使った手作り料理（もーも一黒ごまプリン、チーズケーキ、フロランタン）を振舞いました。

・6月15日㈯ イオンモール熊本での牛乳試飲会・キャンペーンPR活動

熊本県酪農青壮年部協議会、熊本県酪農女性部協議会、らくのうマザーズでは、父の日を翌日に控えたこの日に、イオンモール熊本（嘉島町）にて当キャンペーンのPRと牛乳消費拡大を呼びかける牛乳試飲会を開催しました。当日はあいにくなお天気でしたが、多くの買い物客で賑わう店内では、約800杯の試飲用牛乳が2時間足らずでなくなってしまう盛況ぶりでした。参加した両協議会役員の呼びかけに一般消費者の方は足を止め、冷たい牛乳でのどを潤しながら、キャンペーンの説明や消費拡大への訴えに耳を傾けていました。

▲ 県知事への牛乳贈呈式

▲ 農政局長等への牛乳贈呈式

▲ イオンモール熊本・牛乳の無料試飲会、販促資材配布

宮崎県

●宮崎県酪農青年女性連絡協議会

開催日：6月6日㈭（県庁）
内　容：県知事・副知事・農政水産部長等へ牛乳・乳製品の贈呈

▲ 河野知事贈呈

●西諸県郡市酪農青年女性部連絡協議会

開催日：6月7日㈮（ＪＡこばやし）
内　容：常務・各部署へ牛乳の贈呈

開催日：6月7日㈮（小林市役所）
内　容：市長・各部署へ牛乳の贈呈

開催日：6月13日㈭（えびの市役所）
内　容：市長・各部署へ牛乳の贈呈

開催日：6月13日㈭（ＪＡえびの市）
内　容：組合長・各部署へ牛乳の贈呈

開催日：6月14日㈮（高原町役場）
内　容：町長・各部署へ牛乳の贈呈・女性部手作り牛乳プリンの試食

●ＪＡ延岡酪農女性部

開催日：6月3日㈪（ＪＡ延岡）
内　容：組合長・副組合長へ牛乳の贈呈

●宮崎中央地域酪農協議会

開催日：6月3日㈪（宮崎市役所）
内　容：市長へ牛乳・乳製品の贈呈

開催日：6月3日㈪（ＪＡ宮崎中央）
内　容：組合長・副組合長・常務へ牛乳・乳製品の贈呈

開催日：6月11日㈫（新富町役場）
内　容：町長へ牛乳・乳製品の贈呈

開催日：6月11日㈫（木城町役場）
内　容：町長へ牛乳・乳製品の贈呈

開催日：6月11日㈫（ＪＡ児湯）
内　容：組合長・副組合長へ牛乳・乳製品の贈呈

開催日：6月13日㈭（西都市役所）
内　容：市長へ牛乳・乳製品の贈呈

開催日：6月13日㈭（ＪＡ西都）
内　容：組合長へ牛乳・乳製品の贈呈

●都城地区酪農壮青年部連絡協議会・女性部酪農部会・南部酪農女性部

開催日：6月4日㈫（都城市役所）
内　容：市長へ牛乳・乳製品の贈呈

開催日：6月4日㈫（ＪＡ都城）
内　容：常勤役員へ牛乳・乳製品の贈呈

開催日：6月4日㈫（JA都城都北（事））
内　容：職員へ牛乳・乳製品の贈呈

開催日：6月4日㈫（三股町役場）
内　容：町長へ牛乳・乳製品の贈呈

●串間酪農青年部連絡協議会

開催日：6月17日㈪（串間市役所）
内　容：市長へ牛乳・乳製品の贈呈

第46回

らくのうこどもギャラリー

入賞作品紹介

総評

今年もこどもギャラリーが盛大に開催されたことを心よりお祝い申し上げます。全国から683点の作品を応募いただき、12点の入賞作品を選出いたしました。今回の作品傾向は、アニメーションや漫画に影響されたキャラクターを感じさせる絵や、ポスターのようなメッセージ性のあるもの、鉛筆のみで描かれた静謐な作品、対象を繰り返し描くことで画面を埋め尽くす作品など、以前にもましてバラエティに富んだものが多く見受けられました。その中から特選に選ばれた作品は、田尻琥太朗さんの「なが～い舌でお食事中」です。田尻さんの作品は若干5歳ながらも他のどの作品よりも力強く、また子供らしい大胆さに魅力を感じました。入選1の平山はるとさんの「ぼくじょうのうし」は、丁寧に描かれた牧草、大きな牛さんの体や愛嬌のあるお顔などのんびりとした牧場空間を見事に伝えていました。入選2の山口紗奈さんの「放牧」は、鉛筆のみで描かれ、根気よく対象を観察することで完成度の高い作品に仕上がってます。山口さんは既にデッサンの技術を身につけてますので、更なる高みを目指してほしいと思います。こどもギャラリーでは小学校入学以前の方から中学生まで広い範囲からの応募作品がありますが、各年代ごとの好奇心や発見の楽しさが伝わってくる作品に面白さを感じます。また次に絵を描く時は、新たな発見をすることでしょう。絵を描く経験を通して成長していくことを楽しみにしています。

特選

「なが～い舌でお食事中」

蓬莱保育園（九州）5歳
田尻　琥太朗

田尻琥太朗さんの絵は、今回審査した中で最も力強く迫力を感じました。牛さんの目や鼻、真っ赤な舌が生き生きと描かれ、今まさに食事をしている様子が伝わってきます。草のカラフルな線や、鼻の点描、顔の毛並みの荒々しさなど、描写技法の使い分けも巧みです。動物に対する畏怖を感じさせつつ、元気のある子供らしい絵に仕上がってます。

宮島　径／写真家
（みやじま・けい）

1967年　長野県生まれ。
1991年　東京藝術大学美術学部芸術学科 卒業。
1993年　デーリィマン写真部入社
1997年　フリーランス・カメラマンとなる。

個展：2002年　「surface」（PLACE M、東京）
2006年　「世界のしくみ」featuring麻里布栄（PLACE M、東京）
2010年　「日照時間／ The Daylight Hours」（ギャラリー蒼穹舎、東京）
2016年　「One Another」（喫茶&ギャラリーウィリアムモリス、東京）

浅野　智／画家
（あさの・さとし）

1964年　神奈川県生まれ
1993年　東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻（油画）修士課程　修了
2000年　第11回　関口芸術基金賞　優秀賞
2001年　第12回　関口芸術基金賞　大　賞
2016年　第1回　枕崎国際芸術賞　協賛賞
2017年　文化庁　文化芸術推進事業　ドローイングの現在
NPO法人withART　代表理事

入選１

「ぼくじょうのうし」

那須塩原市立青木小学校（関甲信）５年
平山　はると

広い牧場でのんびりリラックスしている牛さんの様子がよく描かれています。愛嬌のある表情が魅力的ですね。鉛筆と水彩絵具を巧みに使っています。つぶらな瞳や生い茂る牧草の表現に工夫が見られます。はるとくんの牛さんに対する優しい眼差しが感じられる素晴らしい作品です。

入選２

「放牧」

吉祥女子中学校（関甲信）３年
山口　紗奈

「放牧」からは、絵を描く楽しみを感じます。牛さんの体を良く観察して鉛筆で丹念に描けましたね。体の骨格や濃淡、明暗などを意識して根気よく描くことで、牛さんが立体的に表現されています。今後の更なる成長が楽しみです。

入選３

「牛」

岡崎市立豊富小学校（中部）３年
鈴木　深友

かわいらしい子牛さんをよく観察して、そのあどけなさをクレヨンと水彩絵具を使って、上手に描いています。バケツや干草、草原、空をバランス良く配置して子牛さんの周りの雰囲気を作り上げています。画面上の余白も美しくセンスの光る作品です。

入選４

「かわいい産まれたての子牛」

美馬市立岩倉小学校（西日本）６年
古川　日菜

かわいい子牛さんを見守る心温まる絵に仕上がってます。つぶらな瞳や、脚を体に寄せて丸くなっている様子など、産まれたての子牛さんの特徴がうまく表せていると思います。子牛さんの毛並みも部位ごとに色を濃くしたり、茶色で変化をつけたりするなどいろいろな表現を探っているところが面白いです。

秀作１

「牧場」

那須塩原市立青木小学校（関甲信）５年
森本　望月

草を食む牛さんを鋭い観察眼で丁寧に描いた作品。画面両脇にピンクの柱を描き、その影を逆光気味に利用して構図に奥行を出しています。計算された構図は臨場感のある現場を見事に再現しています。描写力、構成力、色彩感覚どれも素晴らしい才能あふれる作品です。

秀作２

「うし」

郡山市立行健第二小学校（東北）２年
岩谷　萌衣

こちらの様子が気になってゆっくり歩み寄ってくるかのような牛さんの動きが絵から伝わってきます。クレヨンと絵の具で描かれた硬質な牛さんに対して、大地の緑色の筆跡や空の青色の粗いストロークによる自由な筆跡によって、牧場の生き生きとした空気感が見事に表されています。

秀作３

「うしだいすき」

筑前町中津屋幼稚園（九州）３歳
湯浅　成菜

色えんぴつで牛さんを描いた作品。色あざやかで線ものびのびとしてバランスが良い、ピンク色の体が可愛らしいですね。まるで抽象画のような芸術的な作品に仕上がりました。見ていて気持ちがうきうきしてくるような楽しい作品です。

ファミリー賞１

「草をたべるじいちゃんのうし」

神埼市立千代田東部小学校（九州）２年
本村　蘭

「草をたべるじいちゃんのうし」では横顔の牛さん、草を食む牛さん、こちらに向かって大きな口を開ける牛さんなどそれぞれの個性や性格がうまく描き分けられています。特に口を開けた牛さんの顔に趣がありますね。３頭がほどよい距離感で配置され、調和のとれた構成で、楽しい絵に仕上がってます。

あすなろ賞1

「うしさんのおっぱいおおきいね!」

認定こども園 慈光第二幼稚園（東北）６歳
星　さくら

まんまるい体の牛さんが正面から堂々と描けましたね。小さな牛さんや子供たちや太陽や花などに囲まれて元気のある絵です。お顔や体の斑紋、おおきなおっぱい、足のならびが子供らしく自由に描かれています。見るひとをおおらかな気持ちにさせてくれます。

ファミリー賞2

「うしのちちしぼりをしたよ!」

倉敷市立第二福田小学校（西日本）３年
小泉　泰雅

牛さんの乳しぼりをしている様子をえんぴつ、水彩絵具、クレヨンを使って描いた楽しい作品。力強いタッチで画面に説得力があります。りっぱな角が印象的ですね。乳を絞る手の表現にもこだわりを感じます。周りのお花の表現も色とりどりで素敵です。

あすなろ賞2

「うしさんかわいかったよ」

北見市立端野中央保育園（北海道）５歳
片岡　みのり

ペンと水彩絵具で描かれた作品。画面いっぱいに牛さんのかわいらしさがあふれています。大きな太陽の下、干草の上の牛さんの笑っているような楽しげな表情が良いですね。色彩感覚も豊かです。画面に走る赤いラインがポイントですね。

DMSシステム

平成30年集計結果

1 DMSシステム参加農家が484戸となりました

DMSシステムが運用され始めてから、今年で12年目となりました。経営に関するご相談は年々増加しており、平成30年3月末現在では、484戸となりました。

図1は参加農家戸数の推移をプラン別に集計したものです。「Aプラン」は本会が紹介している会計ソフト（「e-酪農経営」および、「農業経営管理SaaS」）を酪農家自身が入力・決算を行うプラン、「Bプラン」は、記帳代行を依頼し、決算は自身で行うプラン、「Cプラン」は、記帳代行に加え申告書の作成を税理士に依頼するプランです。また、「それ以外」は、DMSシステムのデータベースを利用した経営分析の実施や、経営相談の依頼を受けた戸数を表しています。

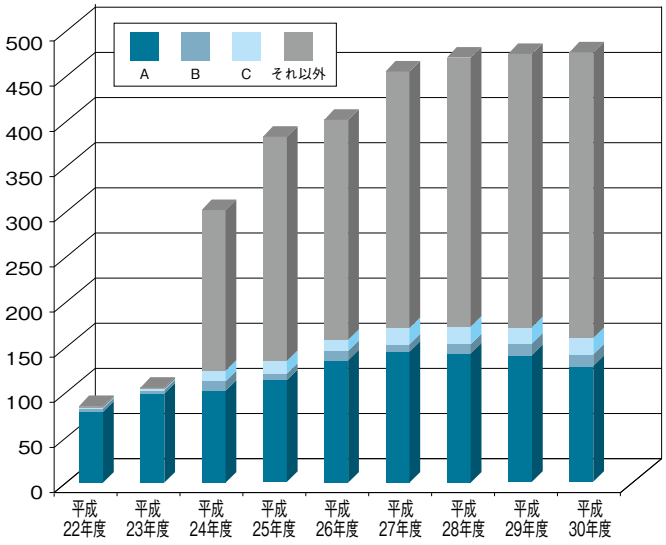
昨年から今年にかけ、法人化・規模拡大等により税理士へ経理を依頼するケースもあり、Aプランの利用者は減少していますが、一方で①補助事業を利用した規模拡大に関する相談や、新規牧場の設立に関する相談、②親子間継承や法人化による経営継承に関する相談が増加しています。DMSシステムではこれらの課題に対し、「酪農経営シミュレータ」を利用した牛群動態や資金繰りの予測を行っております。

今後もDMSシステムは、単なる経理処理のサポートだけではなく、経営者の重要な意思決定をサポートできる体制を整えて参ります。

2 酪農経営の状況

表1は平成29年と平成30年のDMS参加農家の牛群動態、収入、支出および所得の平均値を各項目別に比較したものです。集計範囲は、農業経営管理SaaSを利用している同一農場105戸を対象としていますが、大規模農場については、費用構成（特に労務費等）が個人事業主農場や家族経営法人農場と大きく異なるため集計より除外しています。これにより、集計農場の平均飼養頭数は47頭となりました。また、経営間比較を容易にするため、単位は「経産牛1頭あたり」の数値に換算してあります。

図1　DMSシステム参加農家戸数（H31年3月末時点）



	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
A	76	81	106	120	142	151	153	149	136
B	5	7	9	8	8	12	9	12	14
C	1	2	17	17	17	19	21	20	20
それ以外	2	3	174	243	249	265	295	301	314
合計	84	93	306	388	416	447	478	482	484

(1) 家族所得は、3,333円／頭増加

経産牛1頭当たりの家族所得は、平成29年の169,833円から3,333円増加し、173,166円となりました。所得の増加は、総収入が31,153円／頭増加する一方で、経産牛1頭あたりの総支出は27,821円／頭増加に留まっているためです。以下、収入および、支出の構成と増減要因についてみていきます。

(2) 総収入は、31,153円／頭増加

まず、収入の部についてですが、経産牛1頭当たりの総収入は、31,

153円増加となりました。うち、生乳売上高による増収は6,404円です。これは経産牛1頭1日あたりに換算すると17・5円に相当し、生乳出荷量が若干増加したことによるものだと考えられます。また、肉用子牛の販売額は、164,812円と総収入額の12・3%を占めており、依然として酪農経営における重要な収入源となっていることが伺えます。肉用子牛売上高の過去の推移を振り返ると、平成24年～25年では、60,000円台でしたが、平成27年頃から急速に上昇し、現在では6年前の2・5～3・0倍の収入額となっています。

(3)総支出額も、27,821円／頭の増加、飼料費は上昇傾向

経産牛1頭当たりの総支出額をみると、27,821円／頭の増加となっています。大きな要因を占めるのは飼料費の増加で、経産牛1頭あたり28,920円の増加となっています。購入飼料費の相場は穀類・粗飼料価格の双方において平成29年から平成30年にかけて増減しながらも上昇傾向にあることに加え、添加物等が急騰したことも原因と考えられます。

経産牛1頭当たりの総支出額は年間1,165,931円と依然として高く、一方で生乳売上のみでは補えない状況が継続しています。前述したように、主に子牛販売による副産物収入がそれを補っている構図ですが、相場の先行きも不透明であり、「いつまでも頼ることができない」状況にあることは確かです。相場によって左右されない安定的、継続的な酪農経営を営むためには、生乳売上によって総支出を賄うことができる経営形態・乳価の実現が必要であると言えます。尚、その他費用▲21,612円については、租税公課・肥料費・作業委託料の減少が主因となっています。この点についての背景は今後調べていきたいと思います。

(4)今後の酪農経営への投資

以上より、家族所得としては、昨年とほぼ同額の結果となりましたが、補助事業を利用した事業規模の拡大等への投資等の影響により借入金の償還額が上昇したため、償還後のキャッシュ残は減少する傾向がみられました。DMSでは、規模拡大による相談件数も増加しており、特に若手酪農経営者の意欲の高さを感じることができます。また、その一方で、大きな投資の際には、計画を熟慮し、投資による生産の効率化目標も踏まえた上で、無理のない資金計画、償還計画を策定することが重要であるといえるでしょう。

3 消費税率改定に伴う軽減税率導入への対応

令和元年10月より施行予定の消費税軽減税率導入に伴い、今後、消費税申告に関しては取引の記帳が難解となり、パソコン簿記の必要性が高まると予想されます。DMSで利用するe-酪農経営、農業経営管理SaaSでは、軽減税率制度への対応版を実装致しました。

今後もDMSシステムによる酪農経営サポートにご期待下さい！

表1　酪農経営の変化

	H29	H30	前年差
牛群動態/主な指標			
経産牛頭数	47	47	0
更新率	24.7	27.2	2.5%
死廃率	9.3	11.6	2.3%
乳飼比	53%	55%	2.0%
家族所得率	13.0%	12.6%	-0.4%
			経産牛1頭当たり(円)
総収入	1,307,943	1,339,096	31,153
生乳売上高	999,741	1,006,145	6,404
肉用子牛売上高	160,032	164,812	4,780
廃用牛売上高	23,025	23,357	332
その他売上高	20,718	28,487	7,769
雑収入	104,427	116,296	11,869
総支出	1,138,110	1,165,931	27,821
雇人費	30,086	32,846	2,760
飼料費	532,546	561,466	28,920
診療衛生費	25,538	27,203	1,666
動力光熱費	47,850	53,885	6,035
共済掛金	33,773	34,750	978
修繕費	45,819	45,792	-27
支払利息	2,710	2,268	-442
減価償却費	154,988	164,531	9,543
その他経費	264,800	243,188	-21,612
家族所得	169,833	173,166	3,333
フリーキャッシュ	308,886	295,861	-13,026
借入金償還額	52,624	77,976	25,352
キャッシュ残	256,262	217,884	-38,378

※集計農場は、DMS利用者のうち平成29年、30年双方においてSaaSを利用した同一農場105戸を対象とした。
※フリーキャッシュ＝家族所得＋減価償却費－育成振替高＋廃牛売却原価である。
※その他経費は、種苗費・肥料費・農具費・作業衣料費・地代賃借料・諸材料費・荷造運賃手数料等。

狭山工場紹介

埼玉県南西部の狭山市、川越狭山工業団地の一角に位置する全酪連狭山工場は、1971年（昭和46年）の2月に操業を開始し来年度で創立50周年を迎えるプロセスチーズとシュレッドチーズの製造をメインとする乳製品工場です。

かつてはアイスクリームやフローズンヨーグルトも製造していましたが、現在は商品のラインナップを絞り、スモークチーズを主力にスライス、6P、シュレッドチーズを約100名の従業員とともに毎日丁寧に作り続けています。

工場の敷地内には緑が植えられ、地域環境と景観の保全にも積極的に取り組み、狭山の土地、そして地域に在住の方々とともにその歴史を歩んでいます。

来年2020年に製造開始から40周年を迎える主力商品のスモークチーズは、製造当初より現在まで一貫して、日本を代表する花木である山桜のチップを使用して燻製しています。じっくりと時間をかけて丁寧に燻されたスモークチーズは、手作りだからこその一品一品異なる色調を持ち、袋を開封したときに広がる芳醇な香りと口どけ滑らかでマイルドな味わいが特徴です。

私たちが製造をする上で一番大切にしていることは、高い品質を備えた製品を確実に消費者の手元に届けること。そして、これからも地域の皆様に愛される工場を目指し、その拠点となる狭山物流センターの外壁には、シンボルのクラウンマークと全酪連の文字が大きく描かれています。

新狭山駅から本川越へと向かう西武新宿線左側の車窓から目に入る工場には、全酪連の組織理念と熱意、酪農生産者のロマンが託されています。

▲ 工場外観（車窓から風）

▲ 製造現場より

▲ 商品写真

次号は北福岡工場紹介です。

日本酪農見て歩紀 No.314

比嘉牧場
沖縄県豊見城市

めんそーれ ～兄弟の絆が繋ぐ沖縄の酪農～

地域について

今回ご紹介する比嘉牧場は、沖縄本島の中心都市である那覇市の南に隣接する豊見城（とみぐすく）市に位置します。肥沃な土地に恵まれており、戦前は稲作、サトウキビ、戦後は葉野菜、最近では都市近郊型の農業がおこなわれ、マンゴーなどの果樹類、沖縄県の拠点産地であるトマトなど野菜類の栽培が盛んな地域です。

また、豊見城には、古より伝わる様々な祭事が今日まで脈々と伝承されています。ハーリー（爬龍船競漕）発祥の地、またエイサーゆかりの地、そしてジョン万次郎が滞在したことでも知られています。近年は、那覇空港に近いことからレンタカー各社の拠点や道の駅豊崎、アウトレットモールなどが設立され、県内最大級の人工ビーチ豊崎美らSUNビーチや瀬長島といった夕陽の美しいリゾート地としても注目を集めています。ベッドタウンとしての都市開発に伴い人口伸び率も高く、各メディアでは、豊見城市は若い街、成長力全国上位といった紹介を受ける地域でもあります。

牧場の概況

比嘉牧場は、友明さん（36歳）と弟の直人さん（35歳）、父の光雄さん（66歳）、母の末子さん（64歳）に加え、従業員の宮城さん（34歳）の5名で運営されております。飼養頭数は、経産牛66頭、子牛・育成牛36頭の計102頭です。比嘉牧場が所属する沖縄県酪農農業協同組合は、出荷戸数57戸、年間出荷乳量は19,937t（平成30年度実績）です。

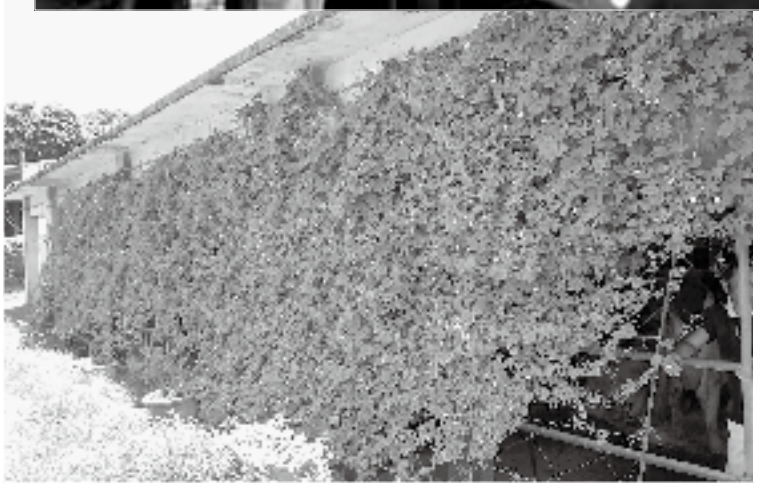
牧場の歴史

比嘉牧場は、祖父の林正さんが昭和39年に乳牛3頭を導入してはじまり、父の光雄さんが就農した直後の昭和53年に現在のコンクリート牛舎を新築して60頭規模に拡大。その後も平成14年に牛舎増築などにより68頭規模まで増頭したものの経営悪化に伴い規模縮小を余儀なくされ、友明さんと直人さんの兄弟が就農した平成23年を境に県酪農協と経営再建計画を策定し運営資金を導入、地道な努力と経営改善を重ね、現在では県内でも有数の規模を誇る牧場になっています。

年　次	出来事	経産牛
昭和39年	林正（祖父）　就農	3頭
昭和49年		16頭まで増頭
昭和51年	光雄（父）　就農	
昭和53年	コンクリート牛舎（60頭）新築し移転	
平成14年	牛舎部分増築	68頭まで増頭
平成20年	経営悪化で牛の淘汰	40頭まで減少
平成23年	友明さんと直人さんが就農	30頭で再スタート
令和元年	現在	102頭

暑熱対策

沖縄県の気候は亜熱帯に属し高温多湿、そして台風が襲うことが珍しくない地域です。このため比嘉牧場だけでなく、牛舎は風雨に強いコンクリート造りがほとんどです。しかし、コンクリートが熱を吸収するため牛舎内の温度が高くなるのが悩みのため、比嘉牧場でも毎年屋根に遮熱ペンキを塗り、屋根もトタンにベニヤ板を重ねる改良を施しておられるそうです。また2頭に対し1台の換気扇（扇風機）を設置し、牛舎内の湿度を確認しながら細霧器を稼働させたり、ゴーヤーを植えたグリーンカーテンを作るなど、考えられる様々な対策を尽くし暑い夏をしのぐ工夫を重ねられています。また、5～10月には、扇風機が24時間稼働することから、インバーターを取り付けるなどの工夫で電気代も抑えることを実現されています。



繁殖管理について

友明さんは、繁殖管理が酪農経営において最も重要なのではないかと考えられており、牛の健康状態を重視した飼養管理を念頭に兄弟2人の目で牛をよく観察し、繁殖カレンダーへの記入を徹底、さらに1週間おきに獣医師による繁殖検診も実施

するなど、分娩後40日前後でのフレッシュチェックを行っています。

主に発情発見は友明さんが、授精は直人さんが担当しており、繁殖管理は兄弟のコミュニケーションが欠かせない作業なのだそうです。

仕事の分担

仕事の分担は友明さんと直人さんが搾乳・飼養管理全般・繁殖管理を、父の光雄さんが糞尿処理を、母の末子さんが哺育・育成全般をそして従業員の宮城さんが搾乳及び全般の作業を担っておられます。基本的にご兄弟で同じ作業を出来るようにしており、経営に余裕が出てきたここ数年前から、友明さんと直人さんと従業員の宮城さんで週一回の休日を設定されています。共に家庭を持たれていることもあり、作業分担をすることで就農当時はなかなか持てない家族との時間を持つことができるようになりました。また、趣味のツーリングも出来るようになるなど充実した毎日を送ることができていると語られておりました。

また、地域の酪農家の仲間との連携も大切にされており、友明さんは沖縄県酪農青年女性部連絡協議会の会長も務められ、率先して一般消費者への酪農理解醸成活動や牛乳消費拡大活動、搾乳体験会などに取り組まれています。

比嘉牧場の周辺は宅地化が進んでおり今後の経営継続のためにはそうした近隣住民の酪農への理解が必要不可欠であると考えられているそうです。

牧場の隣には小中学校があり、少しできた「ゆとり」を活用し、小中学校に働きかけ酪農体験会を開催するなど、理解醸成を通じて地域との繋がりを増やし、酪農業という仕事に理解や興味を持ってもらい、酪農経営を続けやすい環境を自ら作っていこうと考えているそうです。

今後の課題

一番の課題は今後の糞尿処理の取り組みだそうです。現在は近隣の園芸農家に週一回2t車で持ち込み全量引き取ってもらっていますが、現状のバランスでなければ成り立たないことは大きな不安材料だそうです。

糞尿処理に関しては県内の仲間も同様の悩みを持っており、規模拡大や近隣の宅地化に伴う環境対策を仲間の酪農家とともに知恵を絞り解決していくことが、これからの沖縄の酪農を繋いでいくために、とても重要であると語られていました。

これからの沖縄酪農と共に

今年、沖縄県酪協では、年度当初に初妊牛の導入助成を進めるなど組織を挙げての生産基盤支援を進められています。そして、県内生乳生産も令和元年に再び2万t台に回復させるべく取り組みを続けられております。

日頃は口にされないご家族への感謝の言葉を照れくさそうに語る友明さんの表情はとても優しく、今後の沖縄の酪農を語る様は力強いと感じました。今後も比嘉牧場と沖縄の酪農家の皆様の益々のご発展をお祈りいたします。

東京支所発

長野県「酪農青年女性会議総会」開催される

6月11日㈫に長野県酪農青年女性会議（柳澤聡委員長：関東甲信越副委員長）の総会が伊那酪農業協同組合にて開催されました。

開会にあたり柳澤委員長より、関東甲信越酪農青年女性会議の活動報告と理解醸成活動のあり方についてお話しがあり、平成30年度総会が開催されました。

▲ 柳澤委員長挨拶

すべての議案が承認され総会は終了しましたが、栃木県で開催される第49回関東甲信越発表大会、またその先の第50回発表大会に向けての長野県代表発表、一般消費者に対する理解醸成活動内容検討、長野県酪農青年女性会議内の親睦など、また畑作業の進捗や技術・情報交換と、総会後も多くの話がランチミーティングで行われていました。長野県酪農青年女性会議の益々のご発展を祈念申し上げます。（N.T）

▲ 来賓挨拶
（伊那酪農協小松平一代表理事組合長）

▲ 長野県酪農青年女性会議活動内容について

▲ 閉会後もランチミーティング、
“本業”“酪青女活動”について意見情報交換

名古屋支所発

岐阜県各地で「牛乳の日」「牛乳月間」のイベントを開催

6月に「牛乳の日」「牛乳月間」のイベントが岐阜県内各地で開催されました。

6月1日㈯の牛乳の日は、県内4か所で、地元牛乳の試飲や、PRパンフレットとミルメークの配布を行いました。

また6月6日㈭には、高山市で、副市長との懇談や地元FMラジオ局からの生放送を行いました。（Y.K）

▲ 東海北陸自動車道関SA

◀ JAにしみの
ファーマーズマーケット

▲ 東海北陸自動車道ひるがの高原SA

▲ 棚橋牧場「ザ・ミルクショップ」

名古屋支所発

愛知県酪農農業協同組合主催「2019年６月１日牛乳の日キャンペーン」開催

６月１日㈯雲ひとつ無い快晴の中、愛知県酪農農業協同組合（杉浦弘泰代表理事組合長、以下、愛知県酪農協）主催による「2019年６月１日牛乳の日キャンペーン」が開催されました。

愛知県酪農協を始めとして東海酪農業協同組合連合会、愛知県牛乳普及協会、乳業メーカー、酪農生産者、愛知県、そして全酪連など多くの関係者が参加して「６月１日は牛乳の日、６月は牛乳月間」をPRするとともに、牛乳の良さを啓蒙・啓発活動を行いました。

当日は牛乳について色々と紹介したパンフレットとミルメークをセットにした配布物を7,000セット用意し、名古屋の中心であるJR、名鉄名古屋駅前を中心に数箇所に分かれて道行く人に大きな掛け声と共に牛乳の日をアピールして配布しました。

受け取った方々はミルメークを見て懐かしそうにされる方、また「酪農頑張ってくださいね」と応援してくださる方、そして、小さなお子さんからは「ありがとう」との言葉を頂きました。

参加したスタッフ全員　焼き付けるような日差しの中で活動に取り組み、無事キャンペーンは終了しました。（T.K）

名古屋支所発

「美濃酪連 2019酪農まつり」開催

▲ 搾乳体験

６月１日㈯に、美濃酪農農業協同組合連合会（朝日修代表理事会長）のひるがの北濃牛乳工場において「美濃酪連 2019酪農まつり」が開催されました。

例年６月の第１土曜日に行っていますが、今年はちょうど「牛乳の日」当日の開催となりました。

今年も応募のあったご家族の中から抽選で150名を招待し、工場見学、バターづくり、牛乳乳製品の試飲試食、搾乳体験などを行いました。

当日は天気にも恵まれ、大人の方も小さいお子様も、日頃見る機会のない工場内を見学したり、いつもと違った乳製品の食べ方を体験したりと、楽しい1日を過ごされていました。（Y.K）

▶ いつもと違う食べ方に挑戦

▲ 牛乳パックを使って工作

▲ 工場見学

▲ 牛乳パックになりきり記念撮影

名古屋支所発

美濃酪連「2019東濃酪農まつり」を開催

美濃酪農農業協同組合連合会（朝日修代表理事会長）は、６月15日㈯に「コープぎふ恵那店」において、「2019東濃酪農まつり」を開催しました。

会場には、牛乳・乳製品の試飲・試食、搾乳模擬体験、ポニーとのふれあい体験、記念撮影サービス、牛つりゲーム、抽選会などのコーナーが用意されました。

参加者は思い思いに各コーナーに立ち寄って、酪農や乳業への理解を深めていました。（U.M）

▲ のぼり

◀ 搾乳体験

▲ 試飲･試食コーナー

▲ 会場

▲ 牛つり

酪政連活動報告

日本酪農政治連盟

平成31年4月～令和元年5月

平成31年 4/19

正・副委員長会議を開催（於：全酪連　役員会議室）

- 令和２年度酪農政策・予算確保に関する要請（案）について協議

令和元年 5/29

三役会議を開催（於：自由民主党）
中央委員会を開催（於：自由民主党）

- 令和２年度酪農政策・予算確保に関する要請について協議
  東北酪政会が開催され、東北酪政連柴田輝男会長より、「令和２年度酪農政策・予算確保に関する要請」を実施（於：自由民主党）

令和元年 5/14

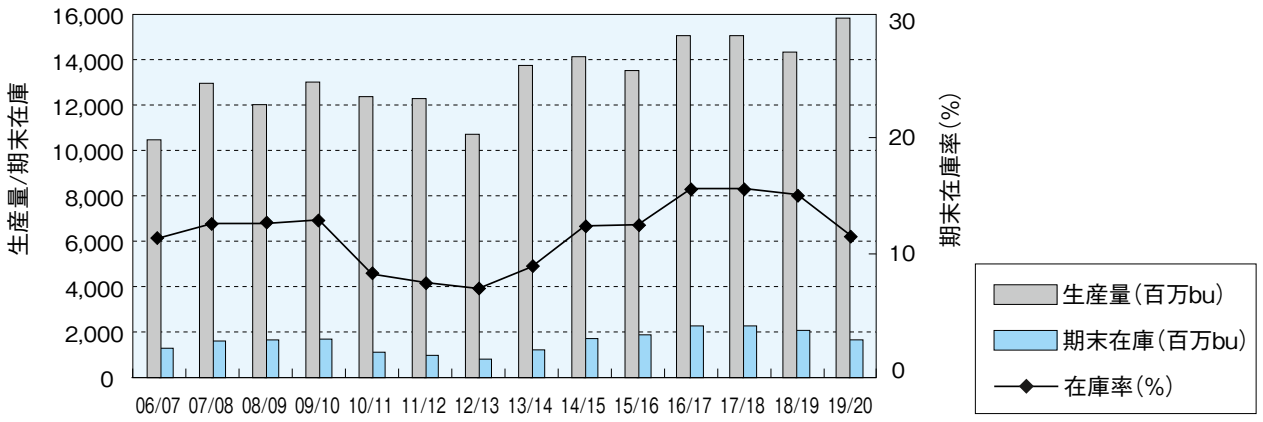
小里泰弘農林水産副大臣に
日米間物品協定（TAG）に関する要請を実施（大槻委員長）

▲ 小里副大臣に要請書を手渡す大槻委員長

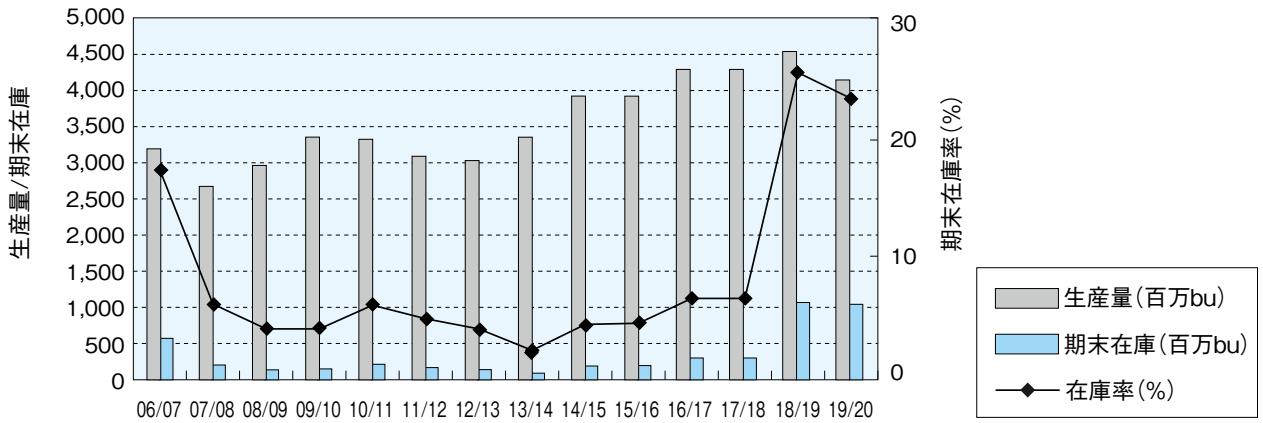
原料情勢　令和元年６月

		18/19年産	19/20年産
6月11日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積（百万エーカー）	89.1	89.8
	単　　収（ブッシェル/エーカー）	176.4	166.0
	生 産 量（ブッシェル）	144億2,000万	159億2,500万
	需 要 量（ブッシェル）	144億000万	146億2,500万
	期末在庫（ブッシェル）	21億9,500万	16億7,500万
	在 庫 率	15.2%	11.8%
トウモロコシ 相場動向	5月中旬以降は、雨天が続いたことで作付が進まず、400¢を超える値動きを見せた。6月上旬には天候が回復したものの、作付進捗は例年より大幅に遅れていることには変わらず、6月9日の作付面積発表では83%（例年99%）、発芽率は62%(例年93%)となった。6月11日のUSDA需給発表でも、予想を大きく下回る作付面積、単収の下方修正となり、市場はさらに値を上げた。今後も、6月中旬での降雨予想による作付面積のさらなる減少が懸念される。6月末の作付面積実績報告に注目したい。		
大豆粕相場動向	不透明な米中貿易協議の行方と、ブラジル産大豆の豊作から在庫の余剰感は拭えないものの、トウモロコシの作付け遅延同様に大豆の作付進捗も低調に推移しておりシカゴ定期は堅調に推移している。中国産大豆粕は養豚が回復基調にあることと、水産、養鶏の需要増加から需給が引締まり、相場もシカゴ定期同様堅調に推移している。国産大豆粕は搾油量、発生量は前年並みに推移しているものの、輸入大豆粕価格の切り上げに伴い堅調に推移している。		
糟糠類	【一般フスマ】　ふすまの需給は今のところ適正に推移しているものの、小麦粉消費量の減少に伴い挽粉量が減少傾向にあり、併せて全粒粉需要が増加傾向にあることから発生量は減少傾向にあり、今後需給が引締まって推移することが予想される。		
	【グルテンフィード】　異性化糖製造数量が最盛期にあり需給は安定しているものの、冬季に向けた在庫確保には至っていない状況にあり、今後需給が引締まることが予想される。		
海上運賃	米国原油在庫報告の予想外の在庫増加を背景に、下落に転じた原油先物価格の影響を受け、海上運賃も反落。しかし、SOX規制の影響を9月積以降の海上運賃に織り込む動きが活発化し始めているため、中長期的には海上運賃は強気なトレンドを形成するものと予想される。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢　令和元年６月

北米コンテナ船フレート	今後の海上運賃については強含みで、一部の船会社では7月1日付で諸チャージの値上げを通知しています。また2020年1月から重油に含まれる硫黄に対して規制が強化される予定ですが、一部の船会社では2019年秋を目途に価格が高い低硫黄燃料の使用を開始、もしくは本船にスクラバー装置（重油に含まれる硫黄を取り除く装置）を据え付けることで規制に対応する動きをしており、2019年度第3四半期より新たなチャージとしてLow Sulphur Fuel Compliance Charge (LSFCC)が導入される予定です。
ビートパルプ	【米国産】　全米の作付面積は３月の段階で前年比15,000エーカーほど増加を見込んでいましたが、現時点では27,000エーカーの増加となる見込みです。当初の15,000エーカーの増加は、昨年の多雨多湿の環境下で作付けできなかった地域が、作付けを再開した数字で、直近の増加分は、作付けの遅れによる単収・生産量減少をカバーするための措置と見られています。このため、昨年に比べ単純に27,000エーカーが増加したと捉えることはできない状況です。日本向けの主力産地であるミネソタ州とノースダコタ州の作付の進捗はまずまずと見られていますが、引き続き雨が多く、冷涼な天候が予想されていることから、今後の発芽や生育に及ぼす影響を注視する必要があります。順調な生育を促すために気温の上昇が望まれるところです。
アルファルファ	【ワシントン州】　主産地であるコロンビアベースンでは、例年であれば５月初旬から１番刈の収穫が開始されますが、今年は冷涼な気候と降雨の影響により、収穫のスケジュールに約20日の遅れが発生しています。大部分の生産者は５月下旬から急ピッチで収穫を進めています。１番刈の収穫は後半に差し掛かっているところですが、各サプライヤーとも本格的な買い付けは実施しておらず、分析値も出そろっていないため、まだ品質や作柄全般について評価しきれない状況です。しかしながら、国内外からのアルファルファへの需要が旺盛な中、生産農家の高値への期待は強く、産地相場は上昇すると予想されています。
	【オレゴン州】　オレゴン州南部クラマスフォールズでは、昨年オレゴン州知事が干ばつ宣言を出すほど水不足が深刻化しましたが、今年のカスケード山脈の積雪量は潤沢であり、産地では断続的に降雨もあるため、水不足に陥る心配はなさそうです。１番刈の刈り取りは例年通り６月上旬からのスタートとなりそうです。また、当地クラマスフォールズでも３タイベールの生産割合が減少し、ビッグベールの割合が増えている傾向にあります。オレゴン州中部クリスマスバレーでは、旧穀の在庫は米国内向けに販売され、余剰在庫はほぼありません。今年の１番刈は例年通り６月中旬からのスタートとなりそうです。クラマスフォールズ同様、クリスマスバレーでもビッグベールの生産割合が増えており、３タイベールの確保は年々厳しくなっています。
	【カリフォルニア州】　南部インペリアルバレーでは、春先の冷涼な天候から転じて、ここ1か月は気温が急激に上昇したため、アルファルファの分析値が低下し、産地相場は若干軟化してきています。しかしながら、引き続きサウジアラビアからの需要は堅調で、相場を支えている状況です。北部カリフォルニアでは、アルファルファ１番刈の収穫は概ね終了していますが、収穫時期に降雨があったため、雨当たり品や刈遅れ品の発生が増えそうです。当地域では牧草の生産に比べ灌漑用水の使用量が少なく、且つ世界的な需要も高まり価格が安定しているアーモンドの作付が毎年増加しており、結果、アルファルファの作付面積が大きく減少しています。
チモシー	【米国産】　今年のチモシーは気候に恵まれており、成育は良好です。コロンビアベースン南部では一部の生産者が刈り取りを開始しています。地域によっては、６月10日頃から刈り取りが本格的してくると予想されています。多くの生産者は刈り取り準備を進めていますが、収穫スケジュールが大きく遅れているアルファルファの１番刈と収穫作業の時期が重なってしまうことで、一部では刈り取り適期を逸してしまうことが懸念されています。
	【カナダ産】　アルバータ州南部レスブリッジ地区の作付面積は昨年比5-10%程度増加しています。昨年までの作付面積の増加は、ここ数年の産地相場の高騰を受けて、既存の生産者がチモシーの作付を増やしてきたことが大きな要因でした。一方、19年産からは新たにチモシーの生産に取り組む生産者が出てきており、作付面積の増加に寄与しているようです。アルバータ州中部クレモナ地区でもチモシーの作付面積は５%程度の増加となっています。チモシーと競合する他作物の相場が不安定である一方、安定的に高値で取引されているチモシーは生産者にとって魅力ある作物となっていることから若干の作付増となっています。
スーダングラス	19年産のスーダンの収穫作業は５月下旬からスタートしています。6月１日時点の作付面積は昨年同期比95%の44,162エーカーとなっています。今後、デュラム小麦を収穫した後の圃場への作付が進むと見込まれることから、最終的な作付面積は昨年と同程度になるものと予想されています。スーダンの需要は堅調に推移しており、産地には繰越在庫がほとんどない中で新穀シーズンに突入していくことになります。新穀の収穫作業はすでにスタートしていますが、まだ新穀相場は立っておらず、新穀の相場が見えてくるには今しばらく時間が必要な状況です。
クレイングラス	**クレインは全酪連の登録商標です。**19年産は５月上旬から収穫作業が始まり、現在１番刈の収穫作業はほぼ終了しており、２番刈の収穫作業も順次始まる見込みです。品質面について、１番刈は収穫期の天候にも大きな問題がなかったことから、概ね例年並みの仕上がりとなっているようです。日本および韓国からの需要は引き続き旺盛な状況が続いており、18年産の繰越在庫もないため、いくつかのサプライヤーは期近の出荷分の確保に向けて積極的に新穀の買付を行っているという情報もあり、産地相場は旧穀相場と比較して堅調な価格のまま推移しています。
ストロー類	ペレニアルライグラスは、現在のところ天候や成育に関して大きな変化はなく順調ですが、去年に比べ作付面積が11%ほど減少しており、生産量の低下が懸念されています。また、オレゴン州中西部に建設されたバイオマス工場では、安価な燃料源としてアニュアルライグラスストローを使用することが計画されています。ストロー製品の供給力低下、産地価格の上昇に繋がる可能性があるとして多くの関係者が同工場の需要に注目しています。
オーツヘイ	【豪州産】　豪州の各産地では2019年産の播種作業は終盤を迎えています。東豪州および南豪州においては、圃場へのオーツの播種作業が完了した５月中旬以降、定期的に降雨があり、生育環境は良好な状況下にあり、順調に生育している圃場ではすでに5cm丈までに成長している状況です。西豪州では播種時期から６月上旬までまとまった降雨がなく、乾燥状態が続いており、土壌水分に乏しいことから地域によっては、まだ発芽すらしていない圃場もあるようです。輸出向け需要については、韓国からはストロー等、他の禾本科牧草に需要が移ったようで引き合いがやや弱まっているようですが、中国、台湾および日本からは引き続き旺盛な状況が続いています。また、豪州国内需要も引き続き旺盛であり、特に昨夏以降旱魃状態が長く続いていた東豪州においては引き合いが強い状況にあります。旺盛な需要を背景に、産地相場は高止まりしたまま推移しています。

栄えある春の叙勲・褒章

政府は5月21日、春の叙勲・褒章受章者を発表しました。

全酪連及び酪農関係からは、次の方々が受章の名誉に輝きました。心からお祝い申し上げますとともに、益々のご活躍をお祈りいたします。

●旭日小綬章●

田沼　征彦 氏

元 新岩手農業協同組合 代表理事組合長
元 岩手県農業協同組合中央会 会長

●旭日双光章●

長坂　喜義 氏

元 群馬県牛乳販売農業協同組合連合会 理事
元 高崎市農業協同組合 代表理事副組合長

●瑞宝小綬章●

門谷　廣茂 氏

元 一般社団法人中央酪農会議 専務理事
元 一般社団法人酪農ヘルパー全国協会 専務理事

●瑞宝小綬章●

野口　政志 氏

現 一般社団法人日本草地畜産種子協会 会長

●黄綬褒章●

坂主　正 氏

元 酪農とちぎ農業協同組合 代表理事組合長

▲ 坂主正氏 褒章祝賀会
（酪農10団体主催）にて

INFORMATION

北海道 乳牛産地情報

令和元年７月１日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ↑……強含み ↗……やや強含み →……横這い ↘……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	40～45	↓	札幌管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で95.8%、累計で96.5%、苫小牧管内月計で95.9%、累計で97.2%の実績となっております。7月の初妊牛動向といたしまして、9月～10月分娩が中心となります。6月管内乳牛市場が夏分娩中心となり、軟調な相場となったことから、庭先購買価格もやや弱含みで推移するものと思われます。腹別により価格動向に若干差が生じており、F1腹はやや堅調、雌雄選別腹は軟調な動きとなっています。この地域は高能力牛が出てくる地域ですので、ご希望がございましたらお問合せください。育成牛、経産牛につきましても、軟調に推移するものと思われます。
	初妊牛	70～78	↘	
	経産牛	45～50	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	48～58	↘	根釧管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で99.6%、累計で98.9%、中標津管内月計で101.4%、累計で100.6%の実績となっております。7月の初妊牛動向といたしまして、9～10月分娩が中心となります。6月管内乳牛市場の相場は上場牛が夏分娩へと移行し、メガ･ギガファームの導入の減少により、軟調な相場となりました。秋分娩までは軟調傾向で推移するものと思われますが、秋以降の相場上昇を見込んだ駆け込み需要も予想されますので、引き続き価格動向には注視する必要があります。資源状況につきましては、例年通りの頭数は確保出来る状況となっておりますが、夏季放牧をしている牛も多い為、早めのご連絡をお願い申し上げます。
	初妊牛	70～80	↓	
	経産牛	50～60	↓	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	45～55	↘	帯広管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で103.7%、累計で103.2%の実績となっております。7月の初妊牛動向といたしまして、9月～10月上旬分娩が中心となります。6月管内乳牛市場の平均相場が前回より下げたことから、庭先購買価格もやや弱含みで推移するものと思われます。腹別ではF1腹と雌雄選別腹で70～80万円、和牛受精卵移植腹は受精卵のランクが高いものだと100万円を超える庭先購買価格となることが予想されます。資源状況は各腹確保しやすい状況となっています。初妊牛同様、育成牛、経産牛も軟調な動きを見せています。
	初妊牛	70～80	↓	
	経産牛	47～57	↓	
道北管内	育成牛(10-12月令)	43～53	↘	道北管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で97.5%、累計で98.4%、北見管内では月計で101.7%、累計で102.0%の実績となっております。7月の初妊牛動向といたしまして、9～10月分娩が中心となります。6月管内乳牛市場は上場牛が夏分娩となったこと、道内外のメガ･ギガファームの導入が減少していることから軟調な相場となっており、庭先購買価格についても同様に推移すると思われます。また、この流れは秋分娩まで続くものと思われます。資源状況と致しましては、初妊牛ではF1腹、雌雄選別腹共に確保し易い状況となっており、経産牛に関しましても確保がし易い状況となっております。
	初妊牛	70～78	↓	
	経産牛	48～55	↘	
道内総括	育成牛(10-12月令)	45～55	↘	道内の6月中旬までの生乳生産量前年比は101.3%、累計で101.0%の実績となっております。6月に入り北海道内では1番牧草の収穫がスタートしておりますが、昨年と比較して現時点では順調に収穫作業が出来ているものの、収量についてはやや減少の見込みとなっております。7月の初妊牛動向といたしまして、9月～10月分娩が中心となっております。6月の各地域の初妊牛市場は、夏分娩の上場となりメガ･ギガファームの導入も少なかったことから軟調に推移しています。メガ･ギガファームの導入動向にも注視が必要ですが、秋分娩に入っても軟調に推移することが予想されます。弊会としては引き続き庭先選畜を中心とした購買を行ってまいりますので、導入希望･計画がございましたらお早目のご注文宜しくお願い致します。
	初妊牛	70～80	↓	
	経産牛	48～58	↘	

今月の表紙

今月の表紙は、「第９回酪農いきいきフォトコンテスト」（第47回全国大会にて開催）で応募頂いた作品「魔法のレシピで（添加物）だんご作り」（佐賀県酪農婦人部連絡協議会 東部地区 大富鈴子氏 撮影）です。

令和元年7月10日発行（毎月1回10日発行）
全酪連会報 7月号 No.646
●編集･発行人 戸辺誠司
●発行 全国酪農業協同組合連合会
〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番２号 酪農会館
TEL 03-5931-8003 http://www.zenrakuren.or.jp/

編集後記

●いよいよ夏本番！
体調には十分気をつけてお過ごしください。

●会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

今月のらくのうこどもギャラリー 入賞作品紹介

特選

なが～い舌でお食事中

蓬莱保育園（九州）5歳　田尻 琥太朗

今月の入賞作品は…

蓬莱保育園（九州）5歳の田尻 琥太朗さんの作品です。

田尻琥太朗さんの絵は、今回審査した中で最も力強く迫力を感じました。牛さんの目や鼻、真っ赤な舌が生き生きと描かれ、今まさに食事をしている様子が伝わってきます。草のカラフルな線や、鼻の点描、顔の毛並みの荒々しさなど、描写技法の使い分けも巧みです。動物に対する畏怖を感じさせつつ、元気のある子供らしい絵に仕上がってます。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第46回らくのうこどもギャラリー」で全国683点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催　全国酪農青年女性会議